

第2期総合戦略のKPI及び施策評価について【令和3年度分評価】

■第2期総合戦略期間における基本目標の（KPI）の達成状況

基本目標	目標値 R3年度
◆「伊豆市に愛着を感じる」と回答した割合	55% 70.7%
◆社会動態による人口増減	▲58人 ▲70人
◆15歳までの各年齢人口	200人 161人 (平均)

■第2期総合戦略期間における各年度ごとの成果目標（KPI）の達成状況

戦略体系	R3年度
	達成指標数
1. 産業を支える多彩な人材の育成と確保	2／7 (29%)
2. 子育て・教育支援の更なる充実と健康づくりの推進	5／8 (63%)
3. コンパクトタウン＆ネットワークの推進と伊豆市の魅力アピール	6／8 (75%)
達成指標 合計	13／23 (57%)

※R3年度の達成指標数は下表「◎」と「○」の合計。（ ）内は、上方修正前の当初目標達成数。

■第2期総合戦略における成果指標（KPI）の総括

第2期総合戦略における戦略体系ごとのKPI達成状況としては、以下のとおりとなっている。
1. 産業を支える多彩な人材の育成と確保…7指標のうち2指標達成 2. 子育て・教育支援の更なる充実と健康づくりの推進…8指標のうち5指標達成 3. コンパクトタウン＆ネットワークの推進と伊豆市の魅力アピール…8指標のうち6指標達成
全23指標のうち13指標達成（57%）という結果となった。なお、今後毎年実績評価を実施し、都度指標の見直し・上方修正を行い成果目標の達成及び基本目標値に近づけていく。 令和4年6月に実施した市民アンケート結果と第1期総合戦略策定時から令和3年度までの人口動態や人口減少対策施策の実績等を踏まえながら取り組みを進めていくことで、基本目標の実現と魅力あるまちづくりを目指していく。

資料2

■R3（2年目）実績評価

【KPI評価基準】5年後（R6）目標値を100%とした場合… 目標値の60%を超えている：◎ 目標値の40%を越えている：○ 40%に満たない：△

戦略体系	プロジェクト名	指標	基準値	最終目標値 (当初目標値)	R2実績	R3実績	R3評価	R3の取り組み内容	今後の展開
【しごと】 地域の特性を活かして「産業の担い手」と「稼ぐ力」を強化する (産業を支える多彩な人材の育成と確保)	1. 地域の産業を支える人材育成・確保プロジェクト	市内事業所の従業者数（人）	9,232	9,332	9,242	8,922	△	令和3年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大による緊急事態宣言の発出に伴う外出自粛や「密」を避ける生活様式の実践により、各事業の中止や事業所の求人が減少し、各事業の進捗が停滞した。 〔産業部〕地元企業への就業機会創出のため、伊豆の国市と合同でI・Uターン求職者と企業のマッチングを目的に、就職説明会を開催する予定であったが、コロナ禍により令和2年度に続き開催を中止した。	〔産業部〕コロナ禍で求人数の減少等、雇用情勢の更なる悪化も懸念されることから、状況を見ながら今後の合同説明会の実施について検討していく。一方、求職者側の「住まいから近い職場を探している」等の様々なニーズを満たすマッチングの場づくりについても検討していく。
		雇用支援を行った事業者件数（件/年）【件/延べ】	-	3【延べ15】	0【延べ0】	1【延べ1】	△	〔産業部〕令和2年度より「中小企業等奨学金返還支援補助金」を運用し、事業所の雇用維持・人材確保の支援に取り組んでいる。令和3年度は、市内事業所（14社）に訪問し、制度導入及び事業説明を行った。結果として、1事業者（1名）に対し、補助金を交付した。（従業員の奨学金返還を支援する中小企業等に対し、負担額の一部を補助することにより企業の雇用維持・促進を図る）	
	2. 商工業の活性化に挑むにぎわい向上プロジェクト	支援施策を活用して起業・創業した件数（件/年）【件/延べ】	5	7【延べ35】	8【延べ8】	5【延べ13】	△	〔産業部〕「起業・創業支援補助事業」により、サービス業、宿泊業、飲食業において設置工事補助5件の新たな創業を支援した。 ・新規創業者の内訳 修善寺地区3件（サービス業1件、宿泊業1件、飲食業1件） ※うち2件は空き店舗活用 土肥地区2件（サービス業2件） ※うち1件は空き店舗活用	〔産業部〕令和3年度においても、コロナ禍により創業意欲が縮小する中で、目標を下回る結果となったが少しずつ状況は良くなっているため、今後は創業意欲も回復していくものと思われることから商工会で開催する「伊豆創業塾」への参加を勧めるとともに、支援制度の活用を推進していく。
		空き店舗解消数（件/年）【件/延べ】	2	3【延べ15】	6【延べ6】	3【延べ9】	◎	〔産業部〕上記、「起業・創業者支援補助事業」により3件の空き店舗解消にも繋げることができた。	
【しごと】 地域の特性を活かして「産業の担い手」と「稼ぐ力」を強化する (産業を支える多彩な人材の育成と確保)	3. ブランディングによる販売力強化プロジェクト	ふるさと納税、インターネットショッピングを通じた特産物等の売上額（万円）	522.8	700	555	924	◎	〔総合政策部〕個人向けふるさと納税の特産物等の販売については、酒類特集ページの作成やジビエ等の新たな返礼品開発の効果およびコロナ禍の巣ごもり需要もあり、食品の提供額は増加（前年比+66%）となった。 【R3個人向けふるさと納税 特産物売上額：924万円】	〔総合政策部〕令和4年度は売上額1000万円を目標とし、返礼品特集ページのブラッシュアップ、酒類の特集ページやポータルサイトのブラッシュアップ、さらに新たな返礼品の開拓により売上額の増加を目指す。
	4. ひとを呼び、魅力を売り込む稼げる観光プロジェクト	観光消費額（円増減/年）	17,602 (県平均)	22,602 (+5,000)	17,258 (-344)	17,597 (-5)	△	〔産業部〕首都圏の若い女性をターゲットとした誘客プロモーションとして、首都圏向けのテレビ放映（埼玉、千葉、神奈川のケーブルTV）、高速道路のサービスエリアによる速旅パンフレットの配架等を行ったこと、また前年と比べコロナ禍による旅行自粛ムードも少し和らいできたことにより年間観光消費額は約2%の微増となった。 【R3観光消費額：17,597円／年】	〔産業部〕今後も引き続き、首都圏在住の女性（F1層：20～34歳）をメインターゲットとし、伊豆市のファンを増やすための誘客プロモーションの実施により、新型コロナウイルス収束後の更なる誘客に繋げていく。
		年間宿泊者数（人）	813,160	830,000 (+16,840)	433,929 (-379,231)	511,780 (-301,380)	△	〔産業部〕宿泊者数増加に向けて、広域的組織（静岡ツーリズムビューロー（TSJ）・美しい伊豆創造センター・東部コンベンションビューロー）と連携したファミトリップ（旅行業者を対象とした現地視察ツアー）を6回実施し、TSJ主催のインバウンド旅行商品のオンライン商談会に参加し、営業活動を行った。 【R3ファミトリップ内訳：美伊豆4件、TSJ2件】 【R3年間宿泊者数511,780人 前年比 +18%】 【R3観光交流客数2,375,273人 前年比 +115%】	

第 2 期総合戦略のKPI及び施策評価について【令和 3 年度分評価】

■ R 3 （ 2 年目）実績評価 【KPI評価基準】 5年後（R6）目標値を100%とした場合… 目標値の60%を超えている：◎ 目標値の40%を越えている：○ 40%に満たない：△

戦略体系	プロジェクト名	指標	基準値	最終目標値 (当初目標値)	R2実績	R3実績	R3評価	R3の取り組み内容	今後の展開
【ひと】 すべての世代が 「幸せ」に暮らす (子育て・教育支援の更なる充実と健康づくりの推進)	1. ”育てて育つ” Happy子育てプロジェクト	子育て支援サービスの満足度（%）	70	75	42.1	50.4	△	【R3市民アンケート「子育て支援サービスの満足度」：50.4%】 〔総合政策部〕 “親も子も「育てて育つ」”をキャッチコピーに、子育ての魅力を伝えるためのプロモーション動画を4本追加作成した。また、同様にポスターを作成した。更に修善寺駅に伊豆市の子育ての魅力を発信する大型看板を設置しPRに努めた。 〔健康福祉部〕子育て団体応援補助金（※）を新たに設立した。また、団体利用のために生きいきプラザ会議室を解放しており、4団体の登録があった。 ※イベントや教室などを実施する子育て団体に対する補助金	〔総合政策部〕令和3年度中に作成したプロモーション動画やポスター等の掲出を行うとともに、より効果的なプロモーション施策について検討を行っていく。 〔健康福祉部〕令和3年度に設立した子育て団体応援補助金については、各こども園や子育て支援センターにおける周知を行うとともに、子育てモバイル（※）等でも情報発信を行うことで、利用促進を図る。 ※市が提供する子育てに関する情報などを提供するアプリ また、子育て情報誌である「Familyizu」について、SNSを活用した情報収集・発信を行っていく。
		子育て世代の交流の場への参加人数（人）	11,375	12,000	7,032	5,892	△	【R3交流の場参加人数：5,892人（子育て支援センター来場者数等）】 〔健康福祉部〕子育て支援センター（※）についてはコロナの影響による閉所期間があり、人数制限や受け入れ制限を行ったことから、来場者数が大幅に減少した。 ※乳幼児の子どもが親子で気軽に集まって交流を図る場所。市内に10箇所（修善寺保育園・認定こども園あゆのさと・原保子育て支援センター・あまぎ認定こども園・天城湯ヶ島支所・中伊豆認定こども園・土肥こども園・修善寺生きいきプラザ・修善寺東こども園・熊坂こども園）開設されている。	〔健康福祉部〕コロナの影響もあり、飲食の禁止をせざるを得ない状況が続いてはいるが、運動教室やおはなし会等のできることを継続するとともに、できることを検討していく。
	2. 子どもたちの夢を拓く教育環境づくりプロジェクト	学校の授業を楽しんでいる割合（%）	80	85	77.0	85.9	◎	○【生徒へのアンケート調査「学校の授業が楽しいと感じる割合：85.9%】 コロナ禍以前の状況に戻ることはないものの令和2年度と異なり、令和3年度は、感染症対策をしながら、目標を達成するための手立てを考えながら、授業や行事を工夫してきた成果と考える。 〔教育部〕ALT（外国語指導助手）の配置については、市内小・中学校、義務教育学校生徒1593名に対し、7名を配置し、外国語活動及び英語教育に取り組むことで、授業を中心に業間活動や給食等とともに活動をする中で、英会話に親しむ機会が確保された。ALTアンケート調査においても「授業が楽しいと感じる割合」が91.8%となった。	〔教育部〕ALTと児童・生徒との関わりを増やし、日頃から多様な文化や外国語に触れることのできる先進的な英語教育環境を整えていくことで、満足度上昇を目指す。 愛郷心を育むための総合的な学習において、地域のヒト・モノ・コトを見て、聞いて、知る機会を創出し、生業や地域への想いがある方の伊豆市ならではの”ホンモノ”に触れる「実学」を学び、児童・生徒が無限に広がる未来に向かって、意欲的に取り組むきっかけをつくっていく。
		相談窓口の開設・相談件数（開設・件）	-	開設（15）	今後検討	開設（30）	◎	〔教育部・健康福祉部〕子育て世代包括支援センターが、子育ての相談窓口として子どもの発育・発達・家庭での悩み等の解決に努めている。また、幼小中の相談ごとを連携して解決すべく、伊豆市発達支援連携会議にて社会福祉課・子育て支援課・教育委員会・児童発達支援センターが、多様な子どもの困り感や相談に対し情報共有を図り、子どもや家庭にとってより良い支援ができるようにしている。また、子どもに関する連絡・相談先をまとめた伊豆市子育てサポートマップの試案を作成した。 【相談件数：窓口10件、電話20件】	〔教育部・健康福祉部〕今後は、共通のメールフォームを作成し、いつでも相談ができ迅速かつ丁寧な回答ができる仕組み作りを進める。
	3. お達者の秘訣”げんき”プロジェクト	げんきプロジェクト事業への参加者数（人/年）	719	1,285	1,191	862	△	【R3参加者数：862人（H30：719人 19%増）】 〔健康福祉部〕「減塩・運動・禁煙」の推進による健康づくり事業“げんきプロジェクト”においては地域づくり協議会と連携した新規事業であるウォーカーズ銭湯を実施し、延べ136人が参加した。	〔健康福祉部〕今後は、市民の健康維持増進につながるイベントや事業等にげんきプロジェクトのロゴの活用するなど、全庁的なプロジェクトとしてのげんきプロジェクトの推進を目指す。また、今後も地域づくり協議会と連携したウォーカーズ銭湯（温泉を拠点としたウォーキング）の実施を全地区に拡大していく。
		自主的な運営を行う居場所件数（件）	6	15	11	13	◎	【R3健康づくり等の居場所件数：13件】 〔健康福祉部〕ロコトレOB会の居場所づくりに関心のある方への勉強会の実施により、更に居場所の立ち上げが進んだ。また、トレーニングによる効果検証を実施し、健康増進や重症化予防に寄与する。	〔健康福祉部〕高齢者の居場所の更なる充実に向けて、引き続き新規の居場所の立ち上げを目指すとともに、「わがまちの居場所マップ」を居宅介護支援事業所や市内医療機関等に配布していく。
	4. 伊豆市のファンをつくるつながり展開プロジェクト	ふるさと納税額（億円）	3.9677	10	5.7607	8.7359	◎	〔総合政策部〕【R3個人版ふるさと納税寄附額：873,585千円】 宿泊券が主力返礼品であることから、寄附額70万円の高額宿泊券返礼品を新たに開発した。また、虹の郷におけるGCF（ガバメントクラウドファンディング）やLINE公式アカウントの開設などにより、寄附額が増加した。	〔総合政策部〕主力返礼品である旅館宿泊券の充実を継続するとともに、新規需要の獲得を目指した定期便やセット返礼品の開発、観光需要の回復を見込んだ体験型返礼品の充実も図る。また、伊豆市ふるさと納税プロモーション動画を作成し、大手ポータルサイトのトップページを充実させるなど、PR活動にも注力していく。
		移住者の情報交換の場（回/年）	2	3	5	5	◎	【I・Uターンカフェ：5回／年、計29人参加】 〔総合政策部〕新規移住者・先輩移住者・地域住民等の交流の場として情報交換を行う場「I・Uターンカフェ」については、コロナの影響により開催方法がオンラインとなったものの、移住後の悩みや不安の解消・地域との繋がり創出に貢献できた。	〔総合政策部〕移住者が地域や住民と馴染むためには、互いに遠慮しなかなか距離が縮まらない傾向を解消する必要があるため、「I・Uターンカフェ」での情報交換を継続するとともに、先輩移住者を「Izu you Connector」に任命し、移住希望者と地域を繋げる取り組みを推進していく。

第2期総合戦略のKPI及び施策評価について【令和3年度分評価】

■R3（2年目）実績評価

【KPI評価基準】5年後（R6）目標値を100%とした場合… 目標値の60%を超えている：◎ 目標値の40%を越えている：○ 40%に満たない：△

戦略体系	プロジェクト名	指標	基準値	最終目標値 (当初目標値)	R2実績	R3実績	R3評価	R3の取り組み内容	今後の展開
【まち】 魅力にあふれ 「ずっと住み続け たい」と思える (コンパクトタ ウン&ネットワ ークの推進と伊豆市の 魅力アピール)	1. 伊豆市愛を育 む”大好き地域” 実践プロジェクト	地域づくり協議会 が実施するソフト 事業件数（件/ 年）	22	30→40 ※上方修正	22	34	◎	〔総合政策部〕令和3年度において9団体の地域づくり協議会が発足・活動し、小学生見 守り活動や健康づくり支援等、34件のソフト事業を実施した。コロナ禍で学区外からの集 客があるイベントは中止となったが、コロナ感染症対策を施して事業を実施した。自主的 な活動の実施を促す為の情報交換会等はコロナの影響により開催できなかったが、活動は 活発に行われ、地域コミュニティの深化や地元の魅力を再発見する機会をつくることがで きた。 【地域づくり協議会ソフト事業実績：34事業】	〔総合政策部〕地域づくり協議会のソフト事業の更なる充実と地域への愛着の醸成に向け て、R3に実施ができなかった自主的な実施を促すことを目的とした（他地区の事例紹介等 の）情報交換会を3回実施予定。R4.9に第1回を土肥地区にて開催した。
		高校生のまちづく りへの参加人数 （人/年）【人/延 べ】	50 【一】	60 【延べ 300】	36 【延べ36】	79 【延べ 115】	◎	〔総合政策部〕伊豆総合高校との連携により、若い年代目線による地域課題の把握とその 解決案を形にすることを授業に盛り込み、市が支援を行うことで、修善寺駅周辺を中心に 地域住民との交流機会を創出し、活性化や地域愛着の醸成を図った。 【R3伊豆総合高校との連携】 3年生「地域と産業」…地域住民と連携したキャンドルナイトの企画	〔総合政策部〕今後も高校生をはじめとした若者世代と地域との関わりの機会づくりを進 め、修善寺駅周辺や伊豆市の豊富な地域資源を活用した活動の支援を行うことで、様々な 魅力を知りながら地域課題の把握・解決や地域への愛着を育む機会を創出していく。
【まち】 魅力にあふれ 「ずっと住み続け たい」と思える (コンパクトタ ウン&ネットワ ークの推進と伊豆市の 魅力アピール)	2. 安心・安全を 生み出すネット ワーク強化プロ ジェクト	地区防災計画の策 定件数（件）	5	15	0	¹ 【延べ6】	△	〔危機管理課〕地区防災計画策定は、大藪が完成。伊豆市観光協会土肥支部の策定を予定 していたが、コロナ禍で地域の集会等が実施できず、策定には至らなかった。 【地区防災計画策定済：修善寺ニュータウン（H29）、小土肥黒根（H30）、小土肥 浜（H30）、八木沢（H30）、土肥温泉旅館組合（H30）、大藪（R3）】	〔危機管理課〕地区防災計画の策定が延期となった伊豆市観光協会土肥支部の策定を進め る。 また、土肥地区の津波複合施設建設に伴い、屋形地区の策定を予定している。 また、日頃から意識しやすく防災活動に取り組みやすい内容を盛り込み、有事の際の行動 や、地域住民で助け合う「共助」の体制づくりを意識の醸成を高める計画として活用でき るよう進めていく。
		1人当たりの年間 バス乗車回数（年 間乗車回数/人 口）	37	40	25	23	△	〔総合政策部〕R2と同様にいきいきバスや高校生通学補助等の各種補助制度を継続実施し た。コロナ禍の影響もあり、乗車数の増加には至らなかったがキャッシュレス決済の導入 を行い利用しやすい環境を整備した。【一人当たりの年間バス乗車数：23回／年】 〔総合政策部・教育部〕新中学校への通学に絡む新中学校周辺バス停や地区ごとの登下校 に合わせた仮ダイヤの設定を行った。	〔総合政策部〕バス路線の利用状況調査・路線のあり方・地域との協働による交通支援等 について検討するとともに、キャッシュレス決済の使い方を含めた周知や各補助制度継続 等による利用促進にも取り組んでいく。 〔総合政策部・教育部〕令和7年度の新中学校開校に向け、修善寺地区は修善寺駅から新 中学校までの延伸や新規、天城、中伊豆地区はルート変更等を検討している。 R3に仮ダイヤの設定を行ったため、今後は新中学校の日課を踏まえた上で日課調整も含め たバスダイヤを検討する。
	3. 伊豆市の魅力 を伝える”写真 (え)”になるま ちプロジェクト	デジタルサイネー ジ等を活用したイ ベント等の連携回 数（回/年）【回/ 延べ】	-	³ 【延べ15】	³ 【延べ3】	³ 【延べ6】	○	〔総合政策部〕三島駅構内に、子育て・移住定住をテーマとした広告看板、修善寺駅にお いて、伊豆市の子育て”育てて育つ”をテーマとした広告看板の掲出を行った。 また、プロモーション動画の上映先として虹の郷にデジタルサイネージを設置した。 【R3：三島駅看板リニューアル、修善寺駅看板掲出、虹の郷デジタルサイネージ】【R2： いきいきプラザデジタルサイネージ、三島駅看板、庁内パンフレットラック】	〔総合政策部〕今後は、プロモーション動画の効果的な活用方法を検討するとともに、市 外や市内公共施設での放映に向けた調整を行っていく。また、戦略的シティープロモ ーションの今後の展開についても検討を行う。
		伊豆市共通ハッ シュタグ「＃伊豆 市いいね」による SNS投稿数【件/延 べ】	-	2500→ 15000 ※上方修正	2,320	7,321	◎	〔総合政策部〕市公式Instagramでの伊豆市公式プロモーションサポーターのリポス トや、広報での「＃伊豆市いいね」周知、ポスター作成等、サポーターと連携した普及活 動に取り組んだ。 ※サポーター人数26名 【R3SNS投稿数：7,321件】	〔総合政策部〕投稿件数が増加し、観光客等の投稿も散見されるようになったことから、 サポーターと連携した情報発信や、リポストだけではなく、主体的な発信等を含めた「＃ 伊豆市いいね」の今後の展開について検討する。
	4. 伊豆市で暮ら そう！”選ばれる まち”プロジェク ト	移住施策による移 住者件数（件/ 年）【件/延べ】	¹³ 【延べ55】	20→40 ※上方修正 【延べ 100】	³⁷ 【延べ37】	³⁴ 【延べ71】	◎	〔総合政策部〕支援体制を継続した。内訳としては、若者定住促進補助金21件、空き家パ ンク6件、移住相談窓口利用4件、地域おこし協力隊3件。 〔建設部〕平成28年度末に住宅地化を規制する線引きが廃止され、牧之郷駅周辺が市街化 調整区域ではなくなった。そのため、住宅地化が進み、移住定住の促進や拠点性の高いエ リアの都市機能の維持に繋がった。併せて、将来的な歩道の整備、拡幅を考慮した住宅 地、市街地の形成を図る「牧之郷地区計画」（令和元年度末に策）の周知を継続したこと による成果が表れはじめた。 【R3住宅立地件数：21件（修善寺駅1km圏内：5件、牧之郷駅1km圏内：14件、両駅 1km圏内：2件）】	〔総合政策部〕若者定住補助金については継続実施をする。また、先輩移住者を中心に、 伊豆市の移住定住に対し協力してくれる人とのつながりを形成し、効果的に移住・定住を 促進する。
		住宅立地件数【策 定期間内：件/延 べ】	40	10 【延べ50】	9 【延べ9】	21 【延べ30】	◎		〔建設部〕今後も継続した周知を行い、民間主導の宅地開発に対する補助制度の継続実 施・促進により、牧之郷地区をはじめとした住宅開発を促進し、子育て世帯を中心とした 移住定住促進の一環として支援していく。 〔総合政策部〕R4に、拠点性の高いエリア等を対象に、ゆとりある良好な居住環境の創出 を推進する「伊豆市民間宅地開発支援補助金」を創設し移住定住の促進を図る。